

氏名： 伊藤 美重子 (ITO Mieko)
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系
職名： 准教授
学位： 博士 (人文科学)
専門分野： 中国古典文学・中国古典語学
E-mail： ito.mieko@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

中国文学／敦煌写本
Chinese Literature / Dun-Huang Manuscript

◆主要業績

総数 (3) 件

- ・『敦煌文書にみる学校教育』汲古書院、2008
- ・「敦煌写本『雑抄』に関する諸問題」『敦煌・吐魯番出土漢文文書の新研究』p405-p426、東洋文庫、2009
- ・「平安期の金言集と敦煌通俗類書」『日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成 平成 20 年度活動報告書』p108- p 111、お茶の水女子大学、2009

◆研究内容 / Research Pursuits

敦煌文献の中の「学郎題記」を収集整理し、唐末五代における敦煌地区の学校の様相を考察するとともに、「学郎題記」を有する文献の内容から、当時の学校を中心とした文化活動について研究している。

敦煌という一地方の文化活動の調査を通じて、当時の民間での文化のありようを明らかにしたいと考えている。

また、中国中央の文献には見られない資料が敦煌文献と日本の古文献に存在することがあり、中国の通俗的な資料が日本にもたらされていたことが伺える。敦煌文書と日本の古文書との関連について今後、調査してゆきたいと思う。

◆教育内容 / Educational Pursuits

学部「中国語初級」
「中国古典文献講読入門」「(同)基礎」
「中国古典語学講義演習」「(同)講読演習」
「中国古典語学特別演習」
卒論指導

大学院「中国古典語学特論」「中国古典語学演習」
「中国古典文献学」「アジア民俗文化論」
研究指導

◆研究計画

中国の中央には現存しない資料が、敦煌文献と日本の古文書の中に残っていることがある。敦煌文書と日本の古文書との関連を今後、調査してゆきたい。

◆メッセージ

中国は文字の国である。甲骨文から現在中国で用いられている簡体字にいたるまで、脈々と文字文化を伝えてきた国である。漢字文化は中国のみにとどまらず、周辺各国にも影響を与え、日本もその例にもれない。漢字や漢字によって書かれた文章を読むことは、同じ漢字文化圏に属するものとして、みずからを発見するよい機会となる。中国文化を学ぶことで、いろいろな発見をしてほしい。